外の目 中の目

平地林（やま）をめぐる「ものがたりづくり」を！

鈴木健一（平美林会所属団体会員）

石橋公民館で大河ドラマをテーマにした歴史講座の講師を務める鈴木さんに伺いました。

昨年の夏は毎日厳しい暑さが続きました。このところ毎年のように異常気象と言われていますが、こうなると異常の平常化が進んでいるのではないかと思わざるを得ない様相です。

“やま”を新たな“やま”に

こうした中ですが、「天平の丘公園の平地林」に立ち入ってみると、その外との空気の違いに感動します。冷涼でオゾンに溢れ、多くの市民の皆さんにとって、散策、軽運動やお子さんの遊具遊びにと憩いの場となっています。

同公園は淡墨桜や八重桜で知られていますが、史跡としての国分寺・国分尼寺に加えて重要文化財が出土した甲塚古墳、信仰のオトカ塚古墳や近世の古民家があり、ものがたりとして「防人の道」「万葉植物園」「紫式部の墓」が設定されており、市内外の方々が訪れています。農用林の役割が終ってすっかり荒れていた平地林を新たな二次林に育て直した好例と言えましょう。

歴史を紡いできた“やまやま”

市内各地の平地林にもそれぞれ「ものがたり」が設定でき、歴史再発見も期待できるのではないでしょうか。すでに、児山城（古山）地区や地蔵山（南河内）地区の平地林では、市民活動として「ものがたりづくり」や有効活用の様々な企画が実施されています。その他、市内を見廻しただけでも、箕輪城跡・薬師寺城跡等中世城館趾をはじめ、諏訪山地区、祇園原地区、三王山地区、烏ヶ森地区、若林地区、大松山地区等々、地名に「平地林」を連想させる地域が多く散在しています。すでに公園化等の土地利用が進んでいる地域もありますが、まだまだ活用の余地はあると思われます。

ものがたる“やま”を市民の手で

「平地林」の農業・林業資源としての活用が大きく後退してしまった昨今、新たな環境資源（歴史的環境と自然的環境）として、中世・近世・近代・現代につながる新たな「ものがたりづくり」が必要ではないでしょうか。同時に、大切な資源を後世に引き継ぐため、行政の積極的なリーダーシップによりながらも、市民参加による協働の諸活動の早急な展開が求められているのではないでしょうか。

らいさまNEWS

ニュース 自治基本条例の検証を行いました。

前号でお知らせした下野市自治基本条例検討委員会による自治基本条例の検証が完了しました。

自治基本条例検討委員会では、公募で参加した市民や商工会、自治会長連絡協議会、PTA 連絡協議会、市議会の代表に加えて、自治基本条例情報紙であるらいさまの編集委員も委員として一緒に検証を行いました。様々な立場の委員が参加する会議の中で、らいさま編集委員も自治基本条例情報紙を制作しながら感じたこと、協働のまちづくりに関わる課題などについて積極的に意見を述べさせていただきました。

会議で挙がった意見は、条例推進のための提言として、検証結果とともに報告書にまとめ、令和 6 年 1 月 10 日に検討委員会の中村会長から坂村市長へ提出しました。（右写真）

編集後記

2号連続で下野市のヤマ（平地林）を取材した。市内の所々に残る雑木林や公園内の樹木を漠然と「緑」「自然」として捉えていたが、一口に緑と言っても歴史的背景や地域の関わりは場所ごとに違いがあった。戦後、高度成長経済と共に商品としての木材生産の役目を終えたり、生活のために落ち葉や柴が使われなくなったことで、中低木で明るかったヤマも高木が増え、薄暗くなったという。その結果、現在栃木県内でもナラ枯れをひきおこし高木に住み着く虫が発生している。児山城址でも立ち枯れたコナラを見つけ心を痛めたが、考えてみれば脇から新芽が出るかもしれないし、新たに植樹することも可能だ。見方を変えれば、そうして再生したコナラを活用し、人の手で明るいヤマを今から再現できることに気づいた。（お）

【表紙】児山城址西側虎口

企画･編集　下野市自治基本条例情報紙編集委員会（岡田雅代、鈴井祐孝、諏訪守、黒須重光、木村千里）
発　　行　下野市市民協働推進課（栃木県下野市笹原26番地）TEL 0285-32-8887　FAX 0285-32-8606　E-mail :shiminkyoudousuishin@city.shimotsuke.lg.jp